

# 街で拾つた噺

水谷年恵子

## 五郎ちゃんと九官鳥

五郎ちゃんがおうちの前で遊んでゐるこ、お隣のうちの九官鳥が、「馬鹿やーい。」とさなりました。お隣の小父さんは今朝戸を締めて工場へ行つて、籠の中の九官鳥が留守番をしてゐたのです。此の九官鳥はお金をさつさり出して買つた鳥で、大へん賢い九官鳥ですから小父さんが大切に飼つてゐました。小父さんがうちに居て一生懸命仕事をしてゐるこ、此の九官鳥は、「お利口さん」と言つて褒めます。小父さんがお茶碗なご壊したりするこ、九官鳥は、「馬鹿やーい」と言つてわらひます。

五郎ちゃんは今日小父さんが留守なのに九官鳥が、「馬鹿やーい」と言つたので吃驚しました。そして變だと思つて、そつこ小父さんのうちのお庭の方へ行つて見るこ、泥棒が雨戸をこじあけてお座敷へ上つて、小父さんの物を盗まう

さしてゐるこころでした。五郎ちゃんは直ぐに近處の交番へ飛んでいつて、

「お巡りさん、泥棒、泥棒、早く、早く。」

さ告げました。お巡りさんは、「よしつ。」と言つて五郎ちゃんを舐けて來ました。

泥棒は大きな風呂敷包を背負つて、九官鳥のはいつてゐる籠を抱へて小父さんのうちから出て來ました。お巡りさんは、「こらつ。」と言つて泥棒を捕へました。そして九官鳥の籠も風呂敷包も取戻してしまひました。するこ九官鳥が大きな聲で、「お利口さん」とお巡りさんを褒めました。

小父さんが歸つて來て此の話をきいて五郎ちゃんの頭を撫で、

「五郎ちゃんはえらい。五郎ちゃんのお蔭で九官鳥がたすかつた。」

「お禮を言ひました。するさ九官鳥が五郎ちゃんの方を向いて、「お利口さん、お利口さん。」と褒めました。」

### 迷子のアンコ

アメリカ人のレモンさんの奥さんは犬ころを自分の子のやうに可愛がつてゐました。此の奥さんがあまり犬ころを可愛がるので、近處の人達は此の奥さんのこみを犬の奥さんと呼んでゐました。犬の奥さんに子供のやうに可愛がられてゐる犬ころはアンコといふ名でした。

犬の奥さんはアンコを抱いたり、撫でたり、おいしい物を食べさせたりして毎日可愛がつてゐました。そのアンコが或日ふつみ見えなくなりました。さあアンコは何處へ行つたのでせう。犬の奥さんは泣きさうになつて探して歩きまゐりました。アンコ、アンコミ、さんなに呼んで歩いて、可愛いアンコは何處からも出て来ません。犬の奥さんは交番に行つてお巡りさんに頼みました。あつちの交番にもこつちの交番にも、方々頼んでお巡りさんに見付けてもらふこみにしました。それから新聞に、アンコを見付けて連れて来て下さつた方にお金を澤山上げます。」と出しました。

何日たつてもアンコは見附かりません。お巡りさんにも、新聞を読んだ人にも、誰にも見附からないのです。犬の奥さんはたまらなくなつて、今度は小學校の先生にお頼みして、小學校の子供達に見付けてもらふやうに先生からお話して頂きました。先生からアンコのお話を聞いた小學校の子供達は、學校の行きや歸りに、「アンコはゐないか、アンコよ出て来い。」と思つて方々よく見て歩きました。

或日正ちゃんが學校の歸り路で、先生から聞いたアンコに出遇ひました。「アンコがゐた。」と喜んだ正ちゃんは、その焼芋屋から、一錢出して焼芋を一つ買つて、アンコに見せては、お出で、お出でをしてうまく犬の奥さんのうちまで連れて来ました。

アンコが歸つたので犬の奥さんは飛上つて喜びました。そしてアンコを抱いて、正ちゃんの頭も撫でて、アンコには御馳走を食べさせ、正ちゃんにはごつさり御褒美を下さしました。